



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



ケイトウ：(広島県庄原市)

トピックス：「水都おおさか森林（もり）の市 2023」の開催

ニュース：石川森林管理署、島根森林管理署、岡山森林管理署、森林技術・
支援センター、広島森林管理署、広島北部森林管理署

花草木：フレンチマリーゴールド

我が署のスタッフ：島根森林管理署

森林事務所等紹介：大滝森林事務所（滋賀森林管理署）

国有林最前線：箕面森林ふれあい推進センター

トピックス

「水都おおさか森林（もり）の市2023」

【技術普及課】

10月22日（日）、さわやかな秋晴れの下、大阪市北区の桜ノ宮合同庁舎及び周辺の毛馬桜之宮公園で、「水都おおさか森林（もり）の市2023」を開催しました。

大阪は、「水の都」と呼ばれ、江戸時代以降琵琶湖の水を利用した水運交易により発展してきました。琵琶湖がたたえる豊かな水は、森林の恩恵であると考えられます。「森林の市」では一般の方に木材やきのこなどの森林の恵みに触れていただくことで、森林と人とのつながりを実感し、森林・林業・木材産業の果たす役割や木材利用の意義、農山村の現状について理解を深め、豊かな森林資源を次世代に引き継いでいくことを目的として実施しています。

また、「森林の市」は、今年で35回目を数え、近畿中国森林管理局のほか、環境省近畿地方環境事務所、（一社）大阪府木材連合会など15団体で構成される水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会が主催しています。

今年は、「森林の木づかい、知って、学んで、楽しもう！」をテーマに近畿圏内をはじめ中四国などから54団体が出展し、ジビエ料理、柿や梨、干しシイタケなどの食品のほか、木製品・地域の特産品等の販売、木工クラフトや苔テラリウムなどのワークショップ、森林セラピー体験や測量体験、木のおもちゃで遊べるキッズコーナー、各団体の取組紹介など様々な内容で、訪れたお子さんから大人までとても楽しんでいました。



会場の雰囲気



木工品を制作中



キッズスペース：紙芝居



オープニングセレモニー・テープカット

オープニングセレモニーには、島根県の森のしずくの妖精“みーもくん”が応援に駆けつけ、来場者の皆さんに「今日一日楽しんでね」と声をかけ、会場を盛り上げていただきました。また、キッズコーナーにも紙芝居の上映に合わせ登場し、小さなお子さんと記念写真を撮るなど人気者となりました。



オープニングセレモニーみーもくん

また、会場内に設置した森林に関するクイズ5問に答えると参加賞がもらえるクイズラリーを開催しました。木のおもちゃや大きな松ぼっくり、竹炭など森林や木にまつわる参加賞を手に入れようと、幅広い年齢層の方々が参加され、クイズを解きながら森林や木に興味や関心を持っていただきました。

来場者からは、「クラフト体験が楽しかった」「木のぬくもりを実感できた」「木の良さが伝わる」「自然について、見て触れてとても勉強になった」「来年もまた来たい」など、たくさんの声が聞かれ、盛況のうちに終了しました。

安宅小学校と地域住民の方と協働で松葉かきを実施しました。

【石川森林管理署】

10月13日(金)、安宅小学校と「遊々の森」の協定を締結している^{あたかばやし}安宅林国有林(安宅林風景林)において、松葉かき*を行いました。当日は、安宅小学校5年生45名、引率教諭3名、地域住民の安宅住吉会9名及び石川森林管理署10名の合計67名が参加しました。

石川森林管理署長及び安宅住吉会代表の開会挨拶の後、当署職員による海岸林の説明と松葉かき作業の実演の後、参加者は10班に分かれて、約1時間、それぞれ



松葉かきの様子

の場所で協力しながら松葉かきを行い、約930kgの松葉を取り除きました。

参加した小学生からは、「少ない時間だったけど、みんなで協力してきれい

にすることができて楽しかった」「最初は簡単そうだと思ったけど松葉を集めるのは難しかった」などの感想が聞かれました。

石川森林管理署では今後も、安宅小学校の「遊々の森」を活用した体験活動や保全活動など積極的に協力するとともに、地域の皆様にもっと海岸防災林の大切さを知っていただけるような活動を行っていきたいと思っております。

※松葉かきとは、健全な松林を育てることを目的としたもので、林内に堆積した松葉を取り除くことにより、松の生育に適した貧栄養状態の土壌を維持する作業のことです。



集合写真

今年も「さんべ祭」に参加しました。

【島根森林管理署】

10月15日(日)、第43回「第43回さんべ祭 SUNSUN ビレッジ 2023」(さんべ祭実行委員会・国立三瓶青少年交流の家が主催)が開催され、島根森林管理署は森林とのふれあいブースを出展しました。

当署のブースにも、たくさんの親子連れの方等が訪れ、森林クイズのコーナーでは景品の木工クラフト獲得をめ



種子の模型作り

ざし会場内に設置されたクイズに挑戦していました。

午後からは、インドネシアに生育するアルソ

ミトラ・マクロカルパ(和名:瓢箪かずら)の種子の模型を用いた種子(たね)飛ばし体験を行いました。実際の種子は重さが3分の1グラムで、全翼長15cm程の透明な弾性のある後退翼がついており、数十メートルの



模型を用いた種子(たね)飛ばし体験の様子

高さの枝からまるでグライダーのように滑空し、数百メートルも飛ぶことができます。

この種子模型は誰でも簡単に作ることができ、子ども達は完成した模型を楽しそうに飛ばし、生存競争の厳しい自然界で子孫を残すために独自に進化した樹木の不思議を体験していました。島根森林管理署では、今後も地域のイベントに参加し、自然とのふれあいの楽しさを広めたいと考えています。

地元の大学生ボランティアが豪雨災害復旧事業地へ植樹しました。

【広島森林管理署】

10月13日（金）、広島森林管理署山地災害復旧対策室は、広島国際大学の学生と教職員の計121名の協力により、平成30年7月豪雨災害で山腹崩壊した広島県東広島市黒瀬区域の民有林直轄治山事業現場において、アカマツ苗500本を1時間半かけて植樹しました。

広島国際大学は、平成30年7月豪雨により大規模に山腹崩壊した現場に近接しており、広島森林管理署がこの崩壊地の復旧を目指して、平成31年度から民有林直轄治山事業を実施しているところです。

当署と広島国際大学は、令和3年5月に災害のメカニズムを学ぶ救急救命学科の授業の一環で実施した災害現場見学をきっかけに、連携がスタートしました。

復旧事業地における植樹は、昨年続く2回目の取組であり、広島国際大学のキャンパス周辺にある森林の大切さや治山事業が果たす役割への理解を深めることを目的として、学生や広島国際大学の焼廣益秀学長を始めとする教職員が参加して、松くい虫被害に抵抗性のあるアカマツ苗500本を植樹しました。

参加した学生の方からは、「ここに木が生えて元どおりになればいいな」「将来もし災害が起きたとしても、今植えた木が守ってくれたらいいな」などの声が聞かれました。

広島森林管理署では、植樹した学生達の思いが、みどり彩る森林へ復旧することを願いつつ、引き続き、治山事業を通じて地域の安全・安心に貢献していけるよう取り組んでいきます。



集合写真

「第22回森林を考える岡山県民のつどい」に出展しました。

【岡山森林管理署、森林技術・支援センター】

10月14日（土）、グリーンヒルズ津山（津山市）において、「第22回森林を考える岡山県民のつどい」（同実行委員会主催）が開催され、岡山森林管理署と森林技術・支援センターがブース出展しました。

このつどいは、「森林の保全や美しい森づくりを推進するとともに、林業の振興と地域材の需要拡大を図



つるかご作り

る」ことを目的として、平成12年から開催されているものです。

今回は、（公社）国土緑化推進機構 専務理事 沖修司氏による「国土緑化運動と岡山県北の森林づくりへの期待」と題した基調講演やミス日本みどりの大使 上村さや香氏によるギター弾き語りが行われたほか、野外会場では、各団体による木工品・木材の展示販売や木工教



M y 箸づくり

室、ブルーベリー苗木1,200本の無料配布などが行われました。当署のブースでは、つるかご作り、木工クラフト、当署の取組紹介のパネルやドローン等の展示を、森林技術・支援センターのブースでは、木工クラフト（M y 箸づくり）、センターの取組紹介のパネル展示を行いました。

会場には10時の開会から多くの家族連れなどが訪れ、楽しみながら木材などにふれあい、木の温もりや自然の恵みを感じていただけた一日となりました。

庄原市立口和小学校で森林教室を開催しました。

【広島北部森林管理署】

10月12日（木）、広島北部森林管理署は、庄原市役所とふれあいの森協定を締結している「ふれあいの森かまがみねやま釜峰山森林浴公園」（庄原市口和町湯木）において、庄原市役所口和支所と連携して、庄原市立口和小学校4年生12名を対象に森林教室を開催しました。



アベマキの幹の太さを体験

当日は、晴天に恵まれ、少し肌寒い中でしたが、林道入口からふれあいの森入口の釜峰神社まで徒歩で移動し、釜峰神社前で戦国時代の釜峰山城跡の由来等を聞き、ふれあいの森の遊歩道を散策しながら、アベマキの巨木に触れ、幹の太さや木の高さを実感し、自然に親しむ良い機会となりました。

また、カシノナガクイムシ被害防止対策を行っている現地ではシートを取り付けたアベマキを前に、貴重な自然環境の保護、維持に向けた取り組みを説明しました。



森林教室の様子

広島北部森林管理署では、引き続き庄原市立口和小学校をはじめとして、子供たちに国有林をフィールドとして、気軽に自然に触れ合う機会を提供し、森林教室など森林環境教育を推進してまいります。

お知らせ

新任幹部紹介

令和5年10月1日付けの新任幹部を紹介します。



- ①所属：奈良森林管理事務所長
- ②氏名：中井 昌之（なかい まさゆき）
- ③前任地・役職：近畿中国森林管理局 計画保全課 治山課 治山技術専門官
- ④抱負：地域に親しまれる国有林であるとともに、民有林との情報共有や連携を図り公益な森林づくりに取り組んでまいります。

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○11月6日（月）～12月6日（水）の展示は、NPO 自然と緑、多賀森林循環事業協同組合です。

ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【技術普及課】

○令和5年度森林・林業交流研究発表会を11月21日（火）～22日（水）開催します。

参加者の応募方法等は下記の局ホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/gijyutukaihatu/20170324.html>



花草木

【フレンチマリーゴールド】

フレンチマリーゴールド(学名: Tagetes Patula、和名: 千寿菊(せんじゅぎく)・孔雀草(くじゃくそう))は、キク科コウオウソウ属の植物で丈夫で、初心者でも育てやすい植物です。原産地はメキシコです。ひとつひとつの花にボリュームがあるため花壇や鉢植え、寄せ植えなど、どのような場所も華やかにしてくれます。ほかの植物との相性がよく、一緒に植えることで害虫駆除の役割を果たす、コンパニオンプランツとしても有効です。開花時期は、5～7月・9～11月です。

名前の由来

マリーゴールドは、キリスト教の聖母マリアの祝日に、いつも金色に輝く華やかな花を咲かせていたことから「聖母マリアの黄金の花」という意味を込めて名付けられました。原産地はメキシコですが、フランス王室に持ち込まれヨーロッパ全域に普及したため、頭に「フレンチ」がつくようになったといわれています。

花言葉：いつもそばにおいて



大阪市内の道路のプランターで撮影

我が署のスタッフ 島根森林管理署

岡村 夏々(おかむら なな) (R4年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は?】

業務グループの土木担当として、国有林内における林道や林業専用道の設計書作成から発注、実行管理など林道に関する業務を幅広く行っています。また、森林計画の策定や各種森林整備との調整などの業務を行うこともあり、森林整備事業を第一の目的として、現場や予算等あらゆる状況を総合的に判断しながら、今後の森林づくりの在り方を考えるおもしろさを感じています。

【職場の雰囲気は?】

私自身、治山や土木などの専門知識は持ち合わせておらず、毎日が勉強の日々ですが、職場の皆さんが予算や事業実行の流れなどを教えてくださるおかげで以前よりスキルアップしていることを実感できます。

【林野庁の魅力は?】

未来の森林のあるべき姿について考え、自分の足で山を歩き、現場を見て考えることが各担当の成果に繋がっていると考えています。そういった自分たちの仕事が未来の森林を作り上げるひとつであり、やりがいと誇りを感じられる、それが魅力なんじゃないかなと思います。



林道測量の様子

森林事務所紹介

大滝森林事務所（滋賀森林管理署）

森林官 村山 正太（むらやま しょうた）

大滝森林事務所は、滋賀県の中部に位置する近江八幡市に所在しています。管轄区域については長浜市、米原市、彦根市、犬上郡（多賀町、甲良町、豊郷町）、及び愛知郡荘町の全域と東近江市の一部を含めた滋賀県の湖北、湖東地域の4市4町に所在する8団地約6,200haの国有林と6団地約180haの官行造林地を管理しています。

米原市にある奥伊吹^{おくいぶき}国有林はレクリエーションの森に設定されており、当該国有林内にあるスキー場は毎年大勢の来場者で賑わっています。また、長浜市内の国有林内ではハイキングコースが設けられているため、多くのハイカーが登山を楽しんでいます。

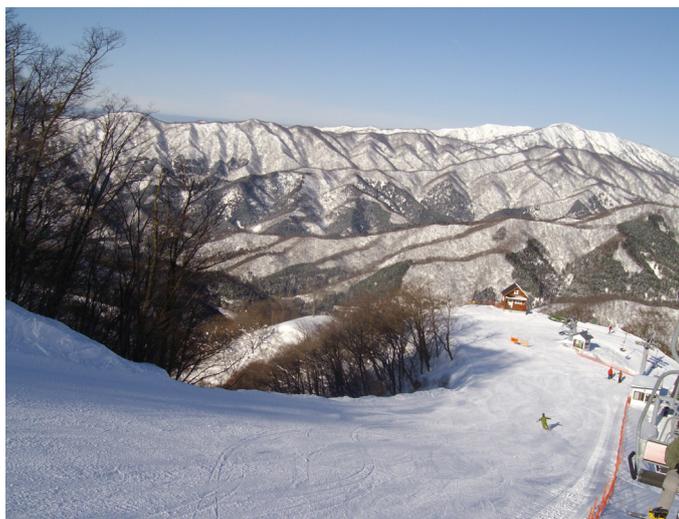


奥伊吹国有林（OWLによる林内調査）



上谷山^{うえたにやま}国有林（ブナ・ミズナラ生物群集保護林内のブナ巨木）

現在の当事務所業務については、林野巡視業務、事業の監督業務（八ツ尾山^{やつおやま}国有林森林整備事業等）を主に行っています。森林整備事業については、事業者との連絡を確実にし、工程管理、現況を的確に把握し事業管理を行っています。事業期間が長期のため、地元住民のご理解・ご協力がなければ成り立ちません。常日頃からトラブル等が起こらないように現場業務に努め、気持ちよく入山していただけるよう国有林の適切な管理・運営を行ってまいります。



奥伊吹国有林（レク森・スキー場）



奥伊吹国有林（レク森・スキー場・秋）

シリーズ『国有林 最前線！』

『イベントの開催について』

箕面森林ふれあい推進センター

当センターでは、里山再生を目的として「オオクワガタの棲（す）める森づくり」をコンセプトにスギ、ヒノキの伐採跡地にクヌギやコナラ、エドヒガン（サクラの一種）などの広葉樹を植栽して、市民ボランティアの協力を得ながら森林整備に取り組んでいます。

また、参加者に森林に親んでもらい、自然の大切さを理解してもらうことを目的に各種イベントを行っています。



幼虫を観察



昆虫ベッド



放虫の様子



放虫された幼虫

その中のイベント「カブトムシ里親まつり」は、参加者が広葉樹林で生息するカブトムシの成育を手助けすることで上記の目的を実感してもらえよう行っています。

今年は、10月15日（日）、^{みのお}箕面国有林内の「エキスポ'90みのお記念の森」において、森林ふれあい推進事業として「NPOクワガタ探検隊」と共催して開催しました。

当日は、8月に実施した同名イベントでカブトムシのペアを預かり飼育を任された「里親」を含む6家族18名が参加しました。

参加者は、「NPOクワガタ探検隊」のスタッフから「子供たちが森に親しみ、カブトムシの飼育を通じて、自然の大切さを感じてもらいたい」とイベントの趣旨の説明をうけた後、創作紙芝居の上演や、森林散策でクヌギやシイなどのドングリを見つけるなど楽しんでから、育てたカブトムシの幼虫をエキスポの森内に設置している「昆虫ベッド※」に放虫する作業を行いました。

大人も子供も一匹ずつ幼虫を受け取り、体の構造についてスタッフの説明に耳を傾けながら観察してから、昆虫ベッドの上に置かれた幼虫が自分の力で土に潜り姿が見えなくなるまで見守りました。

参加者により昆虫ベッドに移された幼虫は、来年の夏には立派なカブトムシとなっていることと思います。

まだまだ道半ばですが、成林した広葉樹の森に子供たちの育てたカブトムシなどが多く生息するような里山づくりを地域の方々と協働して進めていきます。

※昆虫ベッド：センターが設置した腐葉土を敷き詰めカブトムシの生育に適した場所



記念撮影